

褐色のケイ藻が語りかけてくること

真光寺川を清流にする会 山口拓郎

冬の真ただ中です。早朝下堰親水を訪れると権現橋たもとの池は厚い氷に閉ざされています。うれしいことは流れが澄んできたことです。連日、透視度も90Cm以上あり川底の砂の粒子が見える程です。暑い季節には透視度は精々60Cm以下でした。それに毎朝、川面を覆っていた大粒の泡も見られなくなりました。やはり上流の広袴公園へのドロの浚渫作業が効果を現したのでしょうか。散歩の方々も水がきれいになったと口にされるようになってきました。

然し、些細に観察すると水は決して純粋な透明ではありません。全体に薄い雲がかかったように青黒味を帯びているのです。前より水質は明らかに劣化しているようです。湧水の少ない真光寺川は流量が減少し水の純度が保てなくなってしまうのでしょうか。ある種のプランクトンが発生しているのかもしれませんが。さらに川底の石には褐色の藻が付着しています。

先日、この季節にしては異常に高温な一日がありました。驚いたことに流れの様相が一変してしまいました。藻が繁茂し川底を覆ってしまったのです。そればかりか綿状の藻の群体が大量に流れてきました。藻が敏感に水温に反応したようです。「真光寺川まつり」を中止したのもこの藻の存在が主因でした。気持ちの悪い褐色の藻が繁茂した川は、子供たちが気持ちよく遊べる環境ではないと判断したからです。ケイ藻の一種と思われます。

ケイ藻類について調べてみました。

- 1) 光合成によって水と二酸化炭素から有機物を合成し酸素を発生し水を浄化する
- 2) 合成された有機物は魚や水生昆虫に不可欠な食物となる
- 3) 汚濁のすすんだ川と清流では棲息する種類が異なる。

これ迄ケイ藻につき考え違いをしていた自分に気づきました。ケイ藻は川の環境に応じ自然に生きているのです。遙か昔から自然の摂理に従いひたすら種の保存に努めてきたのではないのでしょうか。川をよごしているのはむしろ人間の方です。これからは徒に「きたない」と敬遠することなく、藻が語りかけることに謙虚に耳を傾けることが必要だと感じています。

【11月】

11月6日(火) 里親通信発行・一木会

14時から支所で発行業務。山本、黒田、吉田、野田さん。18時から魚民で一木会。山本、黒田、吉田、岩上さん麻生総合高校の体験学習対応、ウォーキングのコース等につき討議。

11月11日(日) 清掃作業

曇り。11名参加。ゴミ14袋、自転車3台拾得。権現橋上流でナマズを見かけた。木が倒れ川面をふさいでいる箇所が数カ所ある。

11月15日(月) 麻生総合高校体験学習

快晴。麻生総合高校は毎年、体験学習の一環として真光寺川の清掃作業をしている。今年も生徒21名、先生2名が参加した。会からは山本、山岡、生江さんと4名が対応した。

9:40 広袴公園に元気な顔を揃える。

デッキの上で挨拶の後、早速、会の活動、鳥魚を説明する。水辺には鳥の姿は少い。

10:30 広袴公園を一周する。ゴイサギが芦原に潜んでいる気配がする。

10:30 下堰親水へ移動する。川沿いに三々五々、堰きの跡や、谷戸の風景を観察しながら散策する。

11:00 下堰親水到着。数班に分かれて下堰・矢崎橋間の清掃作業に取りかかる。初めての体験だったようだ。

12:00 作業終了、いちよう会館へ移動する。昼食をとりながら川についての話等。

12:30 学校へ向けて元気よく帰って行った。気持ちのいい秋日和の下、のびのびと体験学習を楽しんでいた。後日感想文が送られてきた。

11月21日(水) 和光鶴小へ出前講座

上野先生から出前講座の依頼があった。4月から始めた「真光寺川研究」もいよいよまとめの段階に入り子供たちが聞きたいことが一杯あるようだ。喜んで何うことにした。

11時冒頭「真光寺川の今昔」「清流の会の活

動」を話し質疑応答に入る。魚のこと、鳥のこと、メダカポストのこと、珍しい拾得物のこと等次々と質問があり予定の1時間を大幅にオーバーしてしまう。真光寺川のことを故郷の川としていつまでも忘れることはないだろうと感じる。

【12月】

12月3日(月) 里親通信発行

先約があり参加できなかった。山本、黒田、桜井さん等で発行業務。

12月5日(水) 一木会

18時から魚民で開催。山本、黒田、桜井、吉田岩上さん出席。里親通信の毎月発行の是非等について討議。

12月9日(日) 清掃作業

曇・風強い。参加者10名といつもより少ない。特にゴミの多い下堰親水～矢崎橋間を重点的に清掃する。ゴミ12袋回収。下堰親水 downstream に鯉が一匹死んでいた。

【1月】

1月9日(水) 市・水質検査立会い

市は城内の主要河川15カ所で年4回、定期的な水質検査を実施している。真光寺川では矢崎橋が選ばれている。10月下旬に開催された町田市との打合せの際、立会わせてほしいと要請する。山本、黒田さんと立ち会う。



矢崎橋での水質検査

環境保全課から志賀係長等3名。水質検査を実施したのは環境分析センターの検査員2名。10時から約1時間。

分析項目は水温・色相・臭気・透視度・流量・PH・BOD・浮遊物質・全窒素・全リン等20項目である。検査員が流れに降りて入念に実施する。特に流量調査には時間を要した。

透視度は100Cm強とのこと。

水質の詳細な分析結果は後日、報告してもらえるとのことであった。

1月11日(金) 里親通信発行、一木会

14時から支所で発行業務。山本、黒田、桜井さんと4名。18時から魚民で一木会。山本、黒田、桜井、吉田、岩上、久山さん等7名。新年らしい話題で賑やかだった。

1月13日(日) 境川ウォーキング

快晴微風。1月は清掃作業ができないので毎年ウォーキングすることが恒例になっている。今年は境川を散策することになった。

10時 鶴川駅に集合。参加者7名少し寂しい。

10時半、JR町田駅裏の境川に出て、下流に向

かって出発する。この辺りエコネットの有志で清掃作業をしている場所だ。程なく南東建・東部建設事務所を経て親水広場へ。毎年町田・相模原市合同で開催するクリーン・アップ作戦の拠点 になる広場である。

境川は大地沢を源流として江ノ島の辺りで相模湾に注ぐ全長52Kmの河川である。武蔵国と相模国の境を流れているところから境川と呼ばれていると云う。

町田天満宮に立ち寄る。初詣客が多い。

11時 金森で再び川沿いの道に出る。

川幅は広々としており、流れはきれいだ。所々多くの鯉が群れている。蛇行した古い川筋の跡が残り、その不規則な河川敷が小公園や遊水池として利用されている。

快晴の日曜日、思い思いの服装でジョギングを楽しむ人が多い。

4Kmの行程と聞いていたが結構遠く感じる。途中、小公園で一息入れる。

河岸にカワセミを撮ろうとカメラを構えた人々が群れていた。

12時 ようやく目的地・鶴間公園に着きほっとする。木立の多いゆつたりした公園だ。

近くのアウトレット南町田で新宴会を兼ねて昼食をとる。少々たびれたが健康で快適な一日だった。(この項おわり)